



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

2022年度 決算説明会資料

2023年5月11日
株式会社UACJ



22年度は 前年比増収、棚卸資産影響前経常利益減益 161億円(前年比 △ 52億円)
23年度はエネルギーサーチャージの効果顕現や自動車関連需要回復で改善を見込む

1

■ 2022年度 総括

- ✓ 2022年度は前年比減益、主に自動車生産の混乱影響を受けた
- ✓ 国内:自動車関連が市況影響を受けたが、エアコンフィン材等の一般材の販売が増加
- ✓ 海外:旺盛なグローバル缶材需要を捉え、TAA^{*1}/UATH^{*2}ともに増益
- ✓ 構造改革:構造改革効果210億円を創出、外部環境変化に迅速に対応できる体制を確立

2

■ 2023年度 通期業績見通し

- ✓ 国内自動車生産台数の下期からの回復により自動車関連需要の回復を見込む
- ✓ 北米の自動車生産混乱の解消により、UWH^{*3}の年間での黒字化を見込む
- ✓ エネルギーサーチャージが国内で年間を通して効果顕現
- ✓ 電力費用の追加負担分については引き続き検討いたします




*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.

*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

*3 UWH :UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

外部環境の変化と対応について

収益の安定化に向け、外部事業環境の変化に強い価格スキームを確立

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り導入済み 電力費用の追加負担分については引き続き検討	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	契約更新(新規含む) 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約期間中の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

1. 2022年度 業績

2. 構造改革の進捗

3. 2023年度 業績見通し

4. 国際会計基準(IFRS)の任意適用

5. サステナビリティへの取り組み

6. ご参考データ

1. 2022年度 業績



業績 サマリー

2022年度 棚卸資産影響前経常利益 161億円(前年比 △ 52億円)

2022年度 経常利益 87億円(前年同期比 △ 436億円)

■ 数量：1,330千トン 前年比 +37千トン

- 缶材:UATH(タイ)、TAA(米国)が旺盛な需要を背景に増加
- 一般材:エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- 自動車関連(自動車材、箔)、IT関連材:半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受け減少

■ 棚卸影響前経常利益：前年比 △ 52億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- 国内事業のRM改善(気候変動対策)
- UATH業績好調
- TAA業績好調

△減益要因

- エネルギー価格の上昇
- UWH、国内の自動車関連が、自動車生産混乱の影響を受け減少

2022年度 業績

(単位:億円)

	2021年度 (A)	2022年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	7,829	9,629	1,800
連結営業利益	595	172	△ 423
棚卸資産影響前 連結経常利益	213	161	△ 52
棚卸資産影響額	310	△ 74	△ 384
連結経常利益	523	87	△ 436
連結当期純利益*1	321	47	△ 274
Adjusted EBITDA*2	602	597	△ 5

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 (A)		2022年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	6,975	641	8,509	233	1,534	△ 408
加工品・関連事業	1,648	11	1,991	△ 2	343	△ 12
(調整額)	△ 793	△ 57	△ 871	△ 60	△ 78	△ 3
合計	7,829	595	9,629	172	1,800	△ 423

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

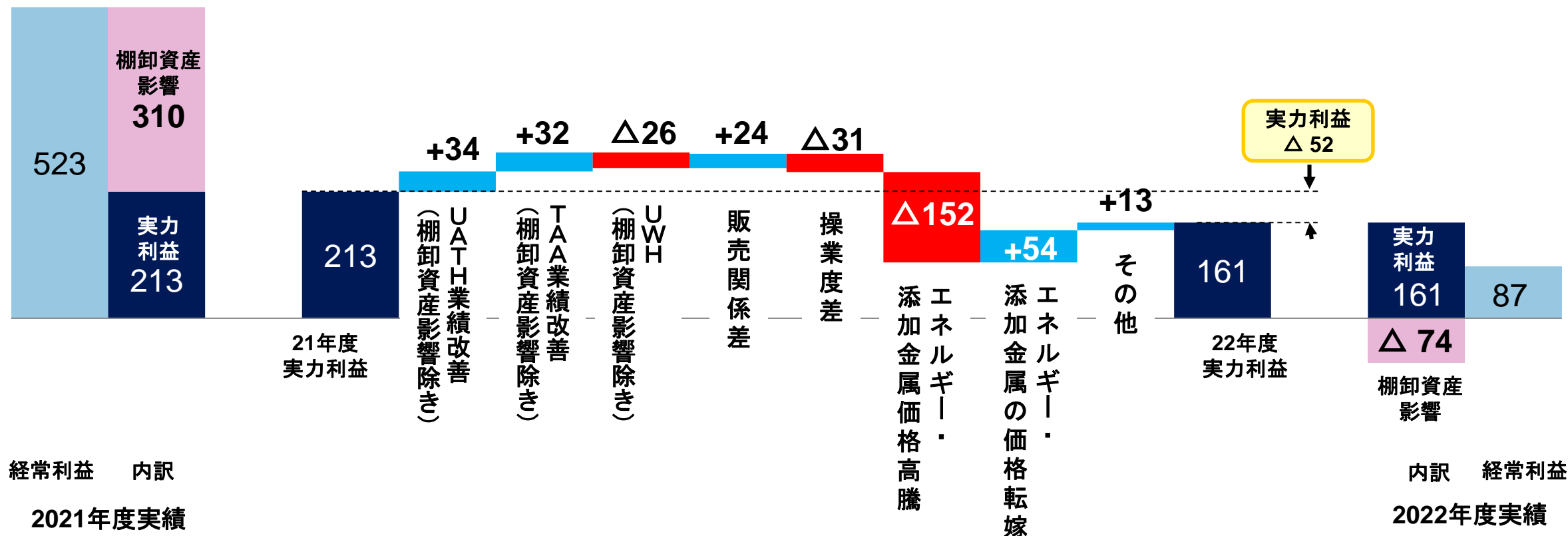
品 種	2021年度 (A)	2022年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*	816	869	53
箔 地	56	46	△ 10
I T 材	14	9	△ 5
自動車材	138	126	△ 12
厚 板	53	52	△ 1
その他一般材	216	228	12
合 計	1,293	1,330	37
	国内市場向け 479 海外市場向け 815	国内市場向け 475 海外市場向け 855	国内市場向け △ 4 海外市場向け 40

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度 → 2022年度)

棚卸資産影響前連結経常利益: **213億円** (2021年度) → **161億円** (2022年度)

(棚卸資産影響額: 310億円(2021年度) → Δ 74億円(2022年度)、前年差 Δ 384億円)

(単位: 億円)

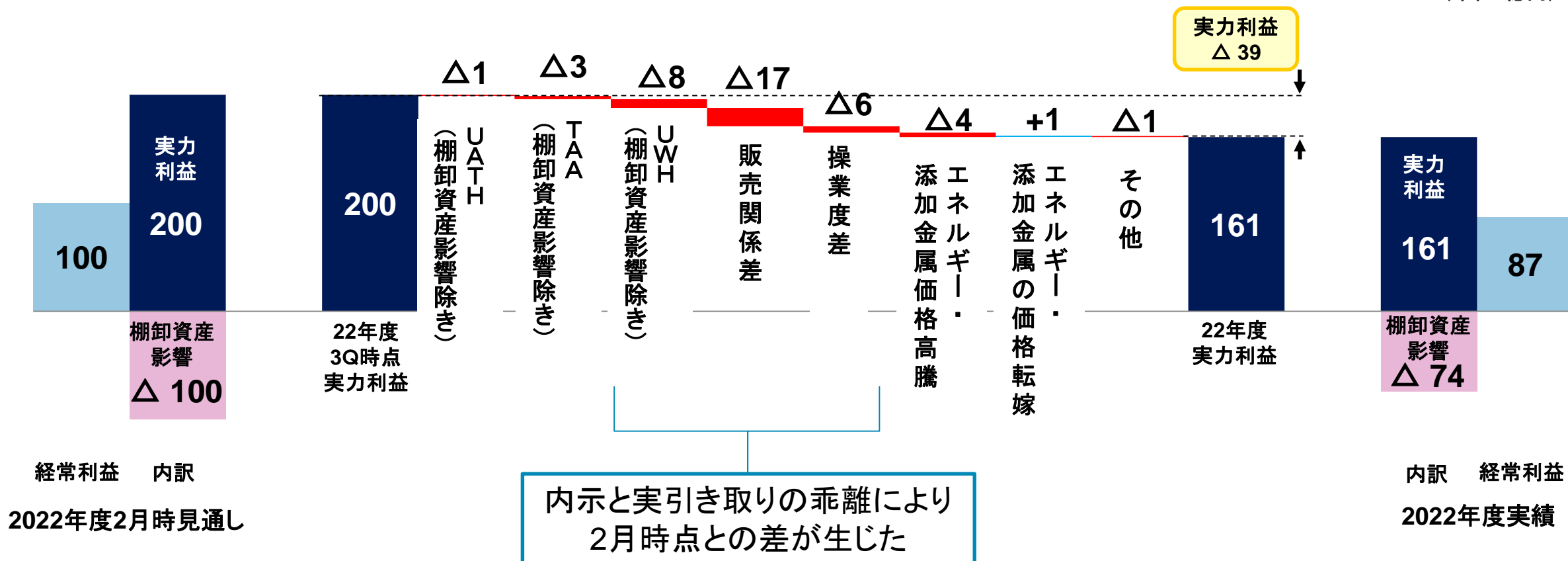


棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2月見通しからの変化)

棚卸資産影響前連結経常利益：200億円 (2月見通し) → 161億円 (2022年度実績)

(棚卸資産影響額：△ 100億円(2月時点見通し) → △ 74億円(実績)、前回差 +26億円)

(単位：億円)



連結貸借対照表、資金運用表

財務基盤の源泉となる長期資金を創出

連結貸借対照表

(単位:億円)	22/3末 (A)	23/3末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	223	80
受取手形及び売掛金	1,227	1,250	23
棚卸資産	2,324	2,235	△ 88
その他流動資産	252	390	137
有形・無形固定資産	3,985	4,126	141
投資その他の資産	356	376	20
資産合計	8,287	8,601	314
支払手形及び買掛金	1,186	1,181	△ 4
短期借入金	1,419	1,577	158
長期借入金	1,975	1,790	△ 185
その他	1,231	1,360	129
株主資本合計	2,090	2,096	6
その他包括利益	190	385	195
非支配株主持分	196	212	16
負債及び純資産合計	8,287	8,601	314

資金運用表

	用途	調達
長期 資金	設備投資他 269	税引前利益 71
	法人税等支払 80	減価償却費 373
	長期資金余剰 95	
短期 資金		運転資金増減他 162
	短期資金余剰 162	

長期資金余剰 95億円

短期資金余剰 162億円

FCF 257億円

長期資金：財務基盤の強化の源泉となる長期資金の創出
短期資金：棚卸資産の削減により生じた効果

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高の減少、D/Eレシオが1.3に改善し、稼ぐ力が向上

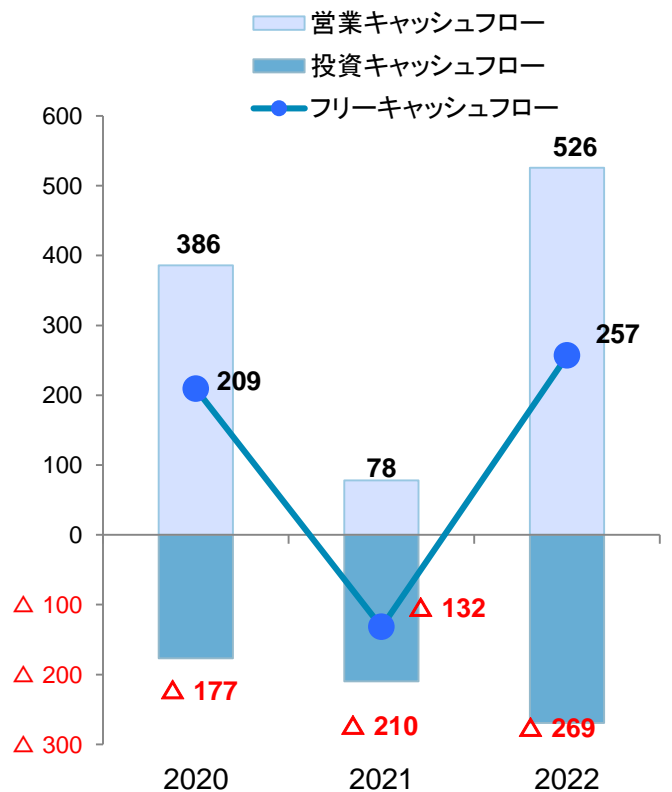
2022年度 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

税引前利益	72
減価償却費(のれん含む)	373
債権債務増減他	81
営業キャッシュフロー計	526
設備投資 他	△269
フリーキャッシュフロー	257
ファイナンススキーム・配当他	△39
現預金増減(△は増加)	△80
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△110
有利子負債の減少	△28

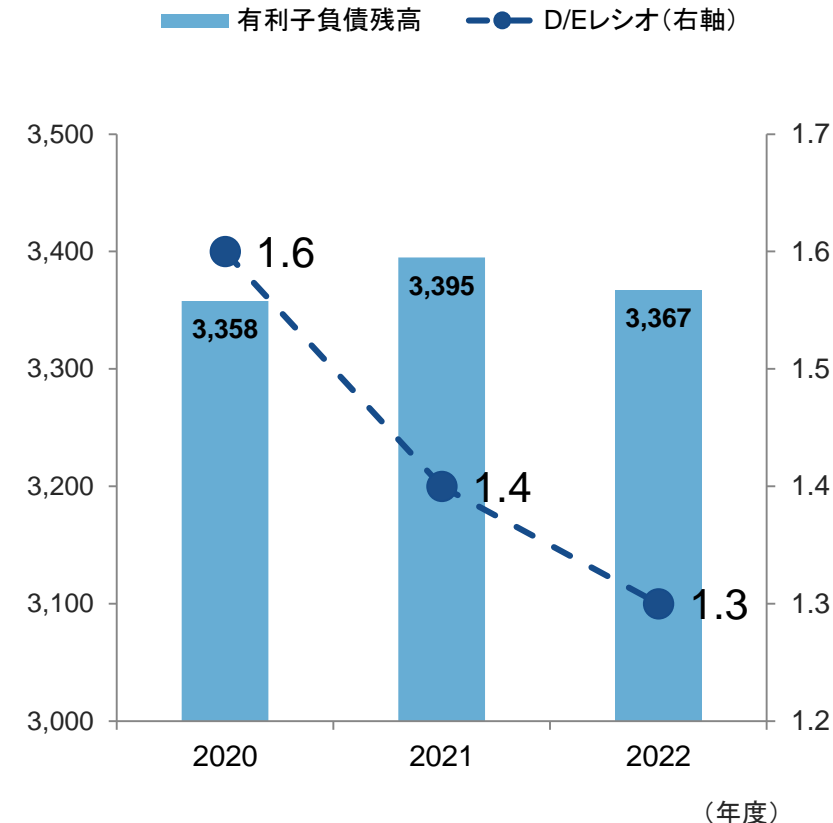
連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ*

(単位:億円)

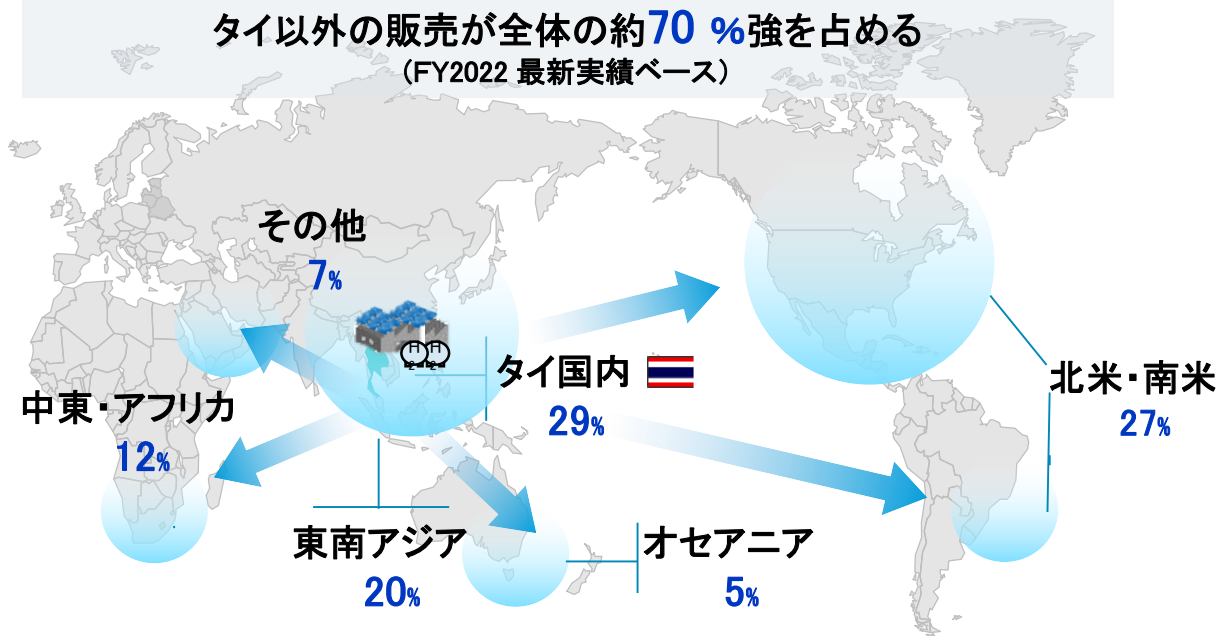


* D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

タイ(UATH)の状況 ～2022年度 総括

グローバルで旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- 添加金属価格の高騰
- エネルギーコストの高騰
- グローバルで中長期的に成長継続
- 添加金属価格の高騰分の転嫁は完了
- エネルギー価格高騰分の転嫁は、新規契約時や、23年度下期から24年度の契約更新時に盛り込む。
- 新規の顧客の材料認定を完了し、中長期的に成長する需要に対応していく

総括

需要 : グローバル缶材需要は、過剰在庫消化の影響を受けるが、2023年度下期には解消の見通し
中長期的には引き続き成長を見込む

販売 : 缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調

生産量 : 27千t/月(2022年1～12月)

販売量 : 27千t/月(2022年1～12月)

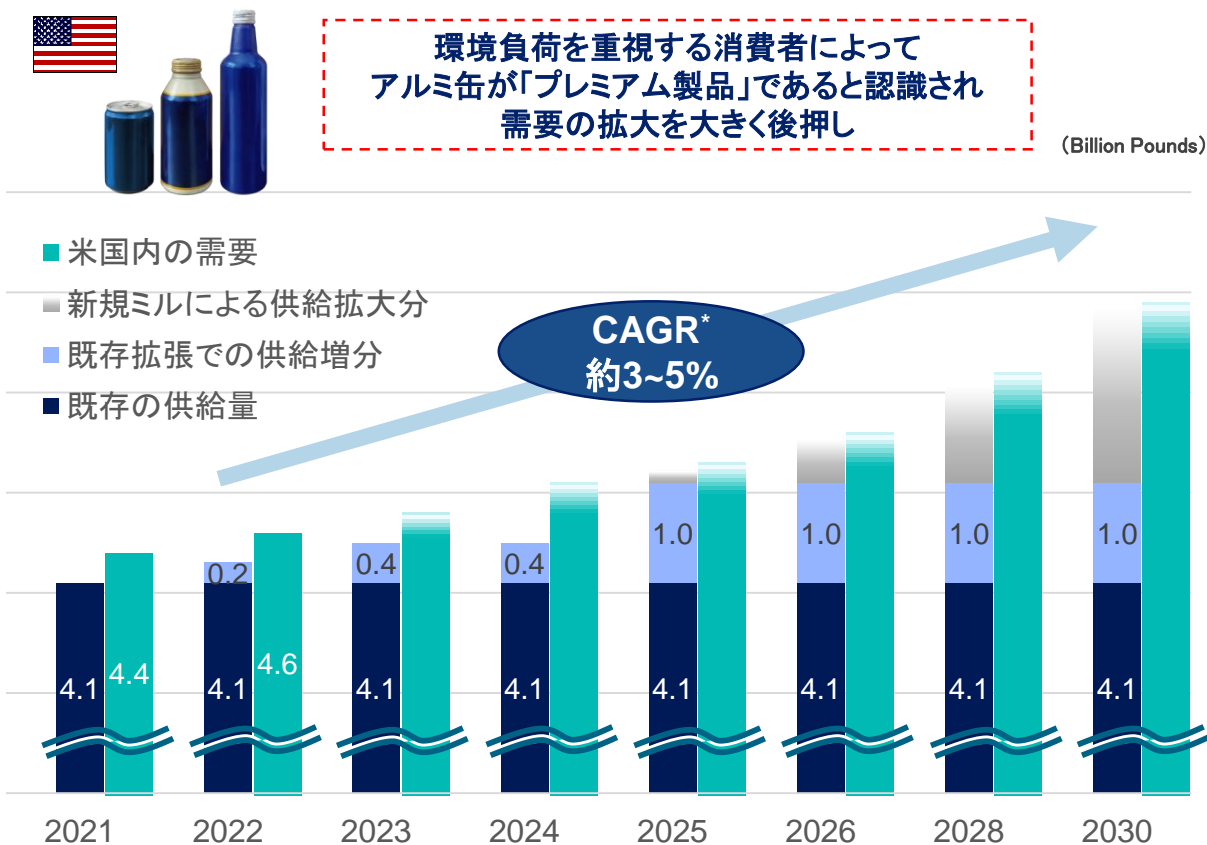
損益 : (単位: 億円)

	21年度	22年度	前年度比
売上高	1,413	1,919	506
営業利益	93	50	△ 43
棚卸資産影響前 経常利益	△ 3	31	34
経常利益	50	11	△ 39

米国(TAA)の状況 ~2022年度 総括

旺盛な米国缶材需要を捉え、実力利益が増加した

米国缶材需要と国内供給能力の推移



出典: UACJ調査による

総括

- 缶材需要 : 足元では在庫調整の影響を受けているが、2023年度下期頃より解消の見通し。長期的には旺盛な需要環境が継続する
- 販売量 : 42千t/月 (2022年4~2023年3月) ※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力 : 約450千t/年体制確立
- 増産対応 : 北米生産拠点の設備増強

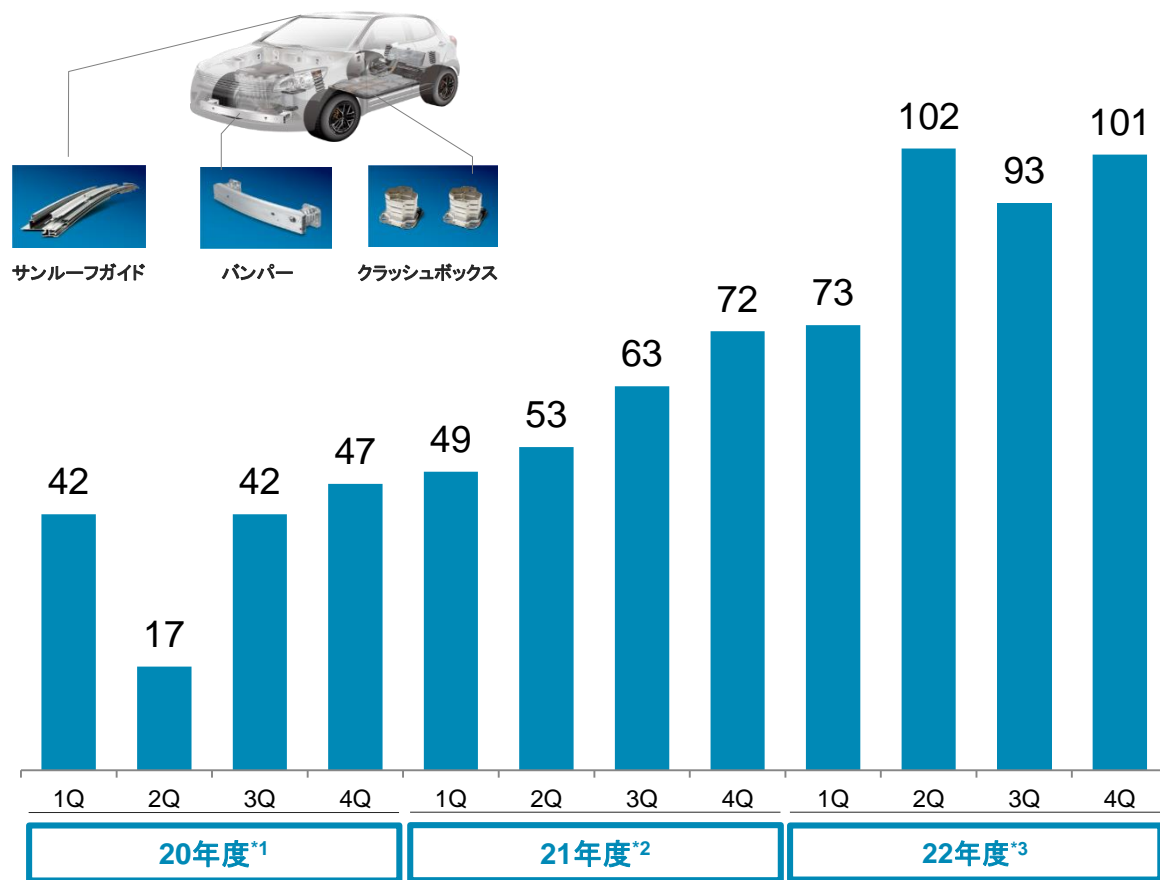
(単位: 億円)

損益	21年度	22年度	前年度比
売上高	2,372	2,865	493
営業利益	320	76	△ 244
棚卸資産影響前 経常利益	99	131	32
経常利益	295	17	△ 278

米国(UWH)の状況 ~2022年度期 総括

顧客の販売計画を元に新ライン導入も、自動車生産混乱影響で実需に期ズレが生じた

UWH 売上高推移(単位:億円)



*1 20年度…2020年1月～12月 *2 21年度…2021年4月～2022年3月
 *3 22年度…2022年4月～2023年3月

総括

- 市場環境** : ・足元は半導体不足等で自動車生産に混乱が生じている。
 ・中長期では米国政府のバイ・アメリカン法により、米国製のEV需要は増加が見込まれる
- 販売** : ・自動車生産混乱を受け実需の期ズレが生じ、顧客に対して販売変動分の保証を交渉中
 ・売上高増加は、アルミ地金価格の高騰影響
- 生産体制** : ・新ライン稼働開始も、販売影響で低稼働
 ・需要回復に備え、自動化・コスト削減など実施

損益 (単位:億円)

	21年度	22年度	前年度比
売上高	237	369	132
営業利益	△ 15	△ 28	△ 13
棚卸資産影響前 経常利益	△ 18	△ 44	△ 26
経常利益	△ 18	△ 42	△ 24

2. 構造改革の総括



構造改革の重点課題と実施施策

構造改革の目的として、強い経営基盤を確立すること

重点課題

稼ぐ力の向上

財務体質の改善

マネジメントの仕組みの強化

施策

- 損益分岐点引き下げ等による、環境変化に強い収益構造の確立
- 実施済み大型投資の能力最大限活用による成長分野の需要捕捉と収益最大化
- 投資の厳選
- 棚卸資産の削減
- キャッシュフロー、資本効率を重視した経営への取組
- 取締役・役員体制見直し
- 組織・権限・コーポレート機能改革
- 理念・価値観の再確認と再構築

構造改革の成果

構造改革で計画した施策は外部環境の変化に対応し、すべて完了

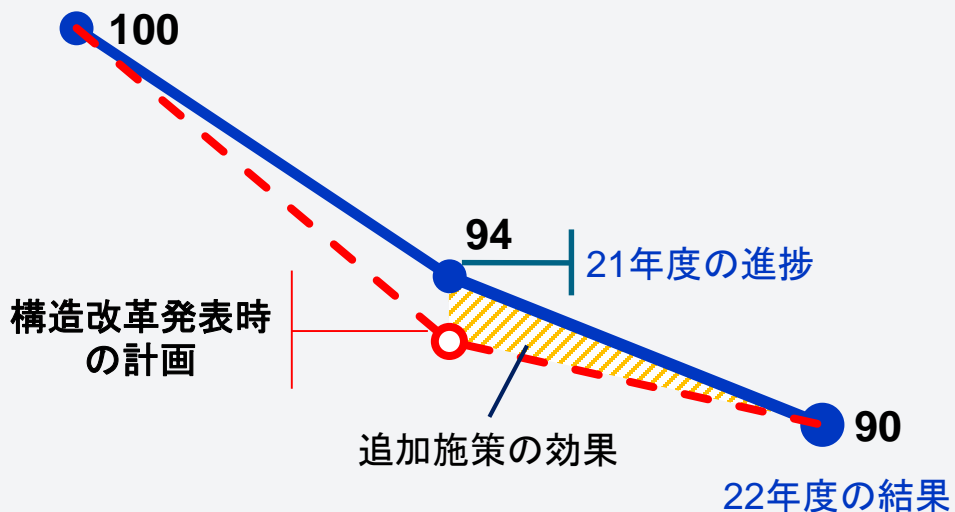
施策		2019年度		2020年度				2021年度				2022年度			
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
生産拠点集約		★深谷下工程 一部停止		日光閉鎖完了★ 押出小山/名古屋プレス集約★				★				深谷自動車材移管完了 (一般材の受注対応により設備稼働継続)			
		移管・品質確認・人員再配置調整													
		集約効果													
		集約効果のフル貢献													
収益化	大型投資	UATH		3期設備 品質確認・生産量拡大				販売 32万トン/年 体制							
	TAA	★新冷延 稼働		品質確認				販売 45万トン/年 体制							
不採算分野/ ノンコア分野撤退		売却・撤退候補分野の撤退検討													
		売却・撤退の実施													
		継続的な撤退の検討													
マネジメント	取締役・ 役員体制見直し	新体制検討		新体制準備		新体制での運営									
	組織・権限・ コーポレート 機能改革	マスタープラン・ ロードマップ策定		詳細設計				コーポレート組織 一部見直し実行				改革実行フェーズ			
	理念・価値観の 再確認と再構築	見直し案の策定		浸透活動											
基盤強化		添加金属価格高騰の転嫁													
		エネルギー価格高騰の 転嫁													

損益分岐点の引き下げ

損益分岐点は今までの構造改革の取り組みにより、目標値まで低下

国内板事業 損益分岐点の推移

2019年度実績を100とした時の指数



FY2019

FY2021

FY2022

*1 UMP:UACJ Marketing & Processing

*2 タイ押出加工:UACJ Extrusion (Thailand)

*3 中国・押出子会社:日鋁全綜(天津)精密業有限公司

主要施策の進捗

- **生産拠点の集約化による固定費削減・稼働率向上**
 - ・日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP*1への集約 → 完了
 - ・名古屋/福井へ集約 → 22年度未完了
 - ・押出小山/名古屋 プレス集約と最適化 → 完了
- **採算性の向上**
 - ・注力・成長分野への対応 → 計画した施策は完了
 - ・低採算分野の是正・撤退 → 計画した施策は完了
 - ・気候変動対策に向けた価格是正（追加施策） → 完了
- **選択と集中**
 - ・英国圧延事業 ブリッジノースから撤退 → 完了(2022年3月)
 - ・タイ押出加工*2 アユタヤ工場閉鎖 → 完了(2022年1月)
 - ・中国・押出子会社*3 出資持分一部譲渡手続き → 完了(2021年12月)
 - ・中国・金属加工子会社(無錫)閉鎖 → 完了(2022年12月)
- **最適生産体制の構築**
 - ・自動車材の生産性向上 → 完了
 - ・福井新CALP(自動車材仕上げライン)活用による製造所間の品種/工程分担の見直し、最適化 → 完了
- **間接費用の削減**
 - ・間接人員の削減等 → シェアードサービス開始
 - ・IT化投資等による業務プロセスの改善 → 開始、進行中

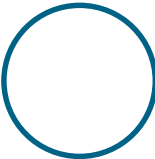

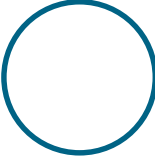
収益改善効果

収益構造の改革・大型投資の収益化を実現し、210億円を達成

	構造改革発表時 (2019年9月)	構造改革効果*	コメント
国内 : 収益構造改革	+100億円	+112億円	
生産拠点集約	+40億円	+14億円	一部品種の受注増加対応で設備停止見直し
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+87億円	生産性向上、気候変動対応価格是正等
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+11億円	予定通り
海外 : 大型投資収益化	+110億円	+98億円	
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+69億円	予定通り
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+51億円	北米缶材需要増への対応で増加
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	△22億円	北米自動車生産混乱の影響で減少
構造改革効果	+210億円	+210億円	

*構造改革効果は構造改革発表時点の諸元により算出

構造改革結果のまとめ

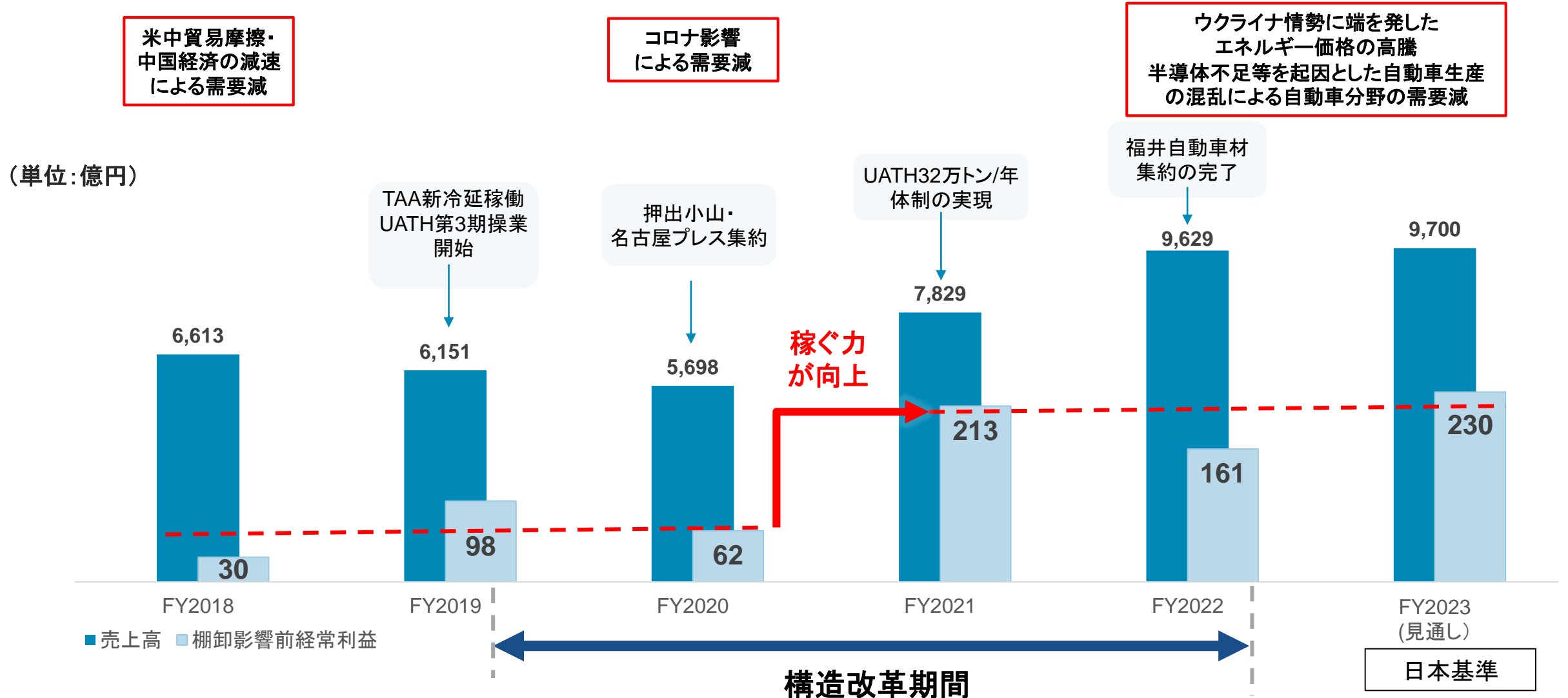
重点課題	結果
<p data-bbox="122 472 397 522">稼ぐ力の向上</p> <ul data-bbox="486 444 1141 568" style="list-style-type: none"> ● 損益分岐点を構造改革開始時点から、10%引き下げ ● 構造改革効果:210億円 	<p data-bbox="1309 419 1462 576"></p> <ul data-bbox="1498 419 2201 544" style="list-style-type: none"> ● 損益分岐点を10%引き下げた ● 構造改革効果として、210億円を創出 ● 追加施策として値決め構造の是正を実施
<p data-bbox="96 743 428 793">財務体質の改善</p> <ul data-bbox="486 729 1090 811" style="list-style-type: none"> ● D/Eレシオを1.7⇒1.3まで引き下げ ● 有利子負債を800億円以上削減 	<p data-bbox="1309 705 1462 833"></p> <ul data-bbox="1498 705 2168 829" style="list-style-type: none"> ● D/Eレシオの引き下げ 2022年度:1.3 ● 有利子負債削減額:280億円 ※地金価格高騰により運転資金が増加
<p data-bbox="122 986 402 1093">マネジメントの仕組みの強化</p> <ul data-bbox="486 986 1072 1110" style="list-style-type: none"> ● 取締役・役員体制見直し ● 組織・権限・コーポレート機能改革 ● 理念・価値観の再確認と再構築 	<p data-bbox="1309 976 1462 1133"></p> <ul data-bbox="1498 933 2466 1143" style="list-style-type: none"> ● 取締役、執行役員の人数削減 ● スキル・マトリックス導入による役員の多様性・専門性の見える化 ● 取締役会、監査役会の実効性評価の実施 ● 業績連動報酬制度の充実(TSR、非財務指標連動の導入)

3. 2023年度 通期業績見通し



経営環境認識

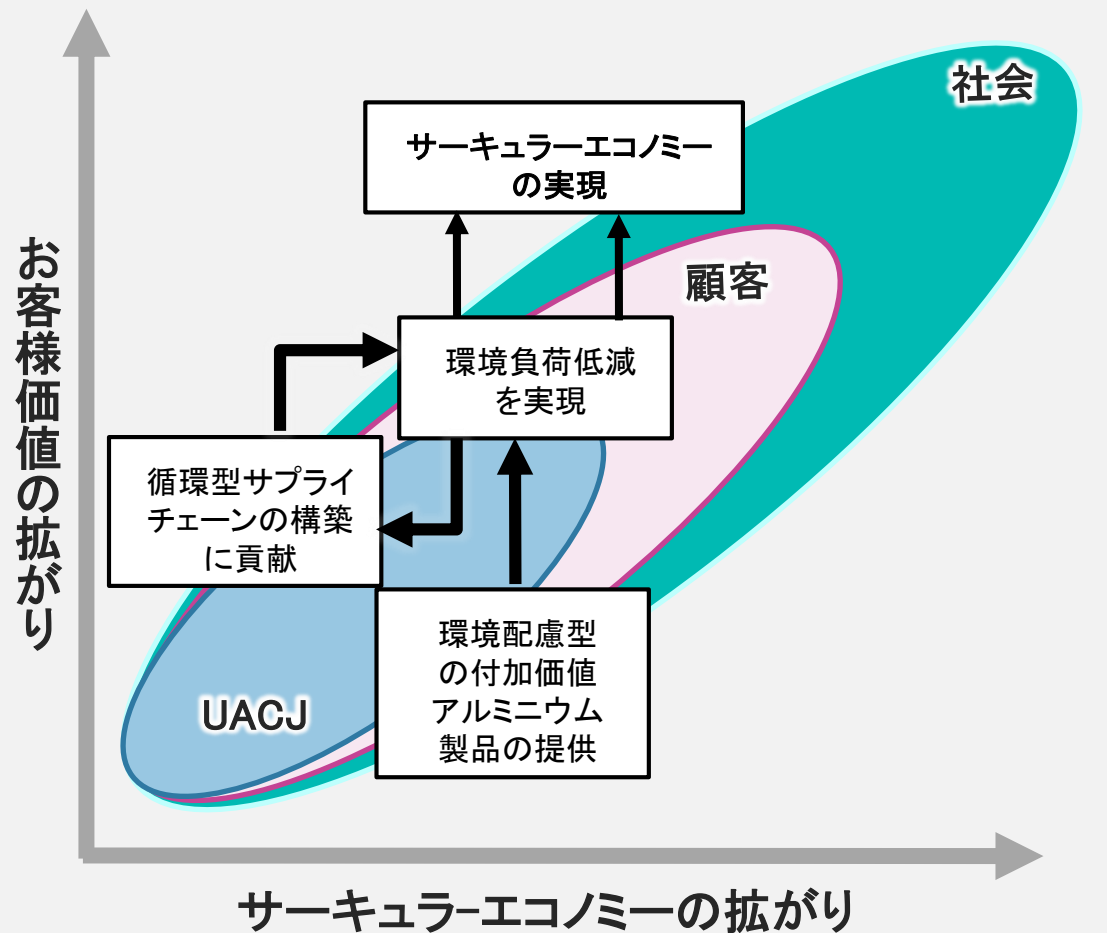
「稼ぐ力」が着実に向上したと同時に、「外部環境の変化に迅速に対応出来る企業体質」に変革



サーキュラーエコノミーを付加価値サービスの提供を通じて推進

アルミニウム素材の付加価値化により、サーキュラーエコノミーの推進とお客様価値を拡大

サーキュラーエコノミーの拡大とお客様価値の拡がり



〈UACJの強み〉

- ◆ **強固な顧客基盤、多品種・多用途への対応力**
 - 板事業だけで**600社以上の顧客基盤**
 - **1,000以上の品種**(板事業のみ)を通じた顧客ニーズに即した最適製品の提供力
 - 主要**6事業の連携**による幅広いニーズに応える総合力
- ◆ **世界3極での生産・販売体制(アルミ板事業)**
 - **世界3極提供体制**を活かしたグローバル缶材供給体制
 - 強固な顧客基盤を中心とした地産地消モデル(日・米)
- ◆ **多様なニーズに応える特徴ある設備と技術力**
 - 多彩で豊富なアルミ製品製造の技術と経験
 - 最適な素材を最大の効率で製造する合金・プロセス設計技術
 - 日米アジアに有する特徴ある製造設備のネットワーク

市場環境認識

全体

- アルミの需要は中長期的にはアルミの環境面環境特性(リサイクル性、軽量性)を受け、増加を見込む
- 2023年度については、上期は需要が厳しいが、下期には自動車関連を中心に需要の回復を見込む
⇒需要が厳しい中ではシェア維持・向上につとめ、さらなるコスト低減活動を推進
- 2023年度はエネルギー、添加金属の市場価格に連動した値決めスキームが年間を通して効果顕現する
⇒電力費用の追加負担分に関して、今後も検討を継続する

缶材

国内: 底堅い需要の中、販売量の増加に向けた活動を実施
グローバル: 足元のインフレ基調の景況感や、サプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響により、北米を中心に一時的に踊り場だが、中長期的には、旺盛な需要環境継続を見込む

自動車材

国内: 自動車生産は半導体等の部品不足が解消基調、2023年度下期より本格的な需要の回復を見込む
UWH: 北米自動車メーカーのサプライチェーン混乱解消で、需要が安定化し2023年度中の黒字化を目指す

一般材

厚板: 短期的には調整局面も、半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調
IT材: 足元は在庫調整の局面も、今後DXや5G関連用途への需要拡大を見込む
エアコンフィン材: 欧州・東南アジアを中心としたグローバルでのエアコン用途拡大により、フィン材需要拡大
印刷版材: 国内回帰の需要取り込みにより販売増加
⇒「強固な顧客基盤」や「多品種・多用途への対応力」を活かし、好調な分野で利益を確保していく

2023年度 通期業績見通し

(単位: 億円)	日本基準 2022年度実績 (A)	日本基準 2023年度見通し (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	9,629	9,700	71
連結営業利益	172	325	153
棚卸資産影響前 連結経常利益	161	230	69
棚卸資産影響	△ 74	△ 20	54
連結経常利益	87	210	123
連結当期純利益	47	115	68
Adjusted EBITDA	596	738	142
年間配当	85円/株	85円/株	—

(単位: 億円)	IFRS 2023年度 (見通し)
連結売上高	9,700
連結営業利益	340
棚卸資産影響前 連結営業利益	360
棚卸資産影響	△ 20
—	-
連結当期純利益	150
Adjusted EBITDA	723
年間配当	85円/株

セグメント別 売上高・営業利益見通し

(単位:億円)

	日本基準 2022年度実績 (A)		日本基準 2023年度見通し (B)		増減 (B) - (A)		IFRS 2023年度見通し	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アールミ 庄延品	8,509	233	8,700	342	191	110	8,700	348
加工品・ 関連事業	1,991	△ 2	1,940	47	△ 51	49	1,940	55
(調整額)	△ 871	△ 60	△ 940	△ 64	△ 69	△ 4	△ 940	△ 64
合計	9,629	172	9,700	325	71	154	9,700	340

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 実績 (A)	2023年度 予想 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*	869	880	11
箔 地	46	53	7
I T 材	9	11	2
自動車材	126	142	16
厚 板	52	47	△ 5
その他一般材	228	203	△ 25
合 計	1,330	1,336	6
	国内市場向け 475 海外市場向け 855	国内市場向け 510 海外市場向け 826	国内市場向け 35 海外市場向け △ 29

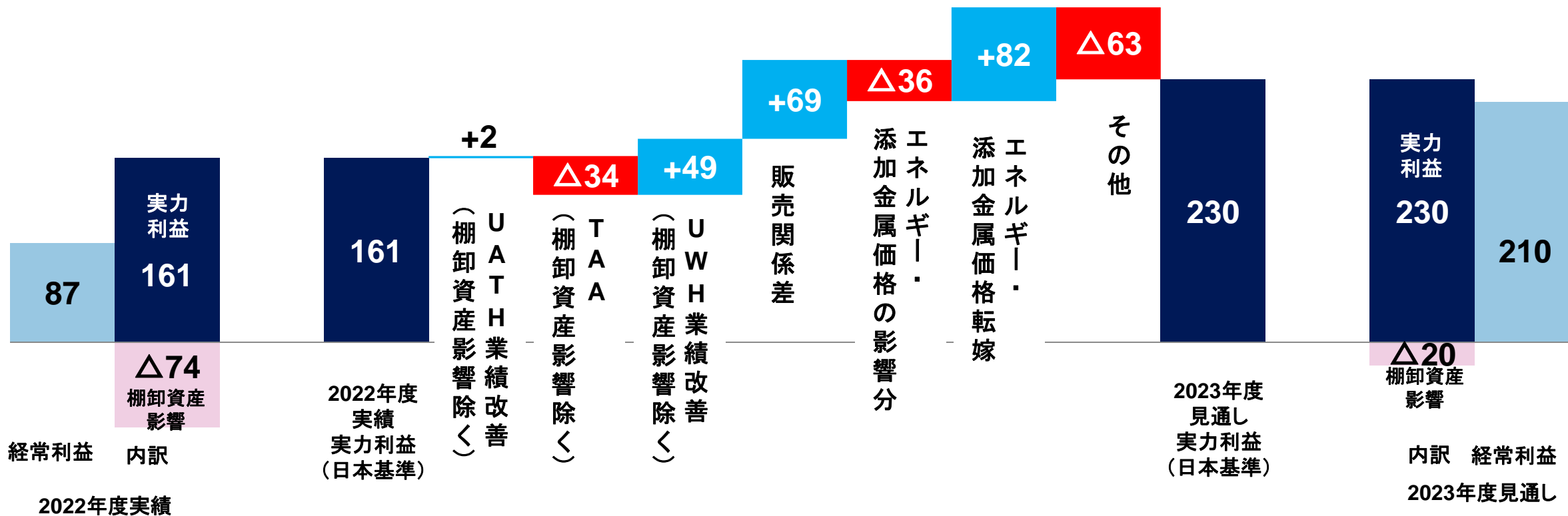
*内部取引控除後の数量

棚卸資産影響前経常利益分析 (2022年実績 → 2023年度見通し) (日本基準)

棚卸資産影響前経常利益: **161億円** (2022年実績) → **230億円** (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 74$ 億円(2022年実績) → $\Delta 20$ 億円(2023年度見通し))

(単位: 億円)

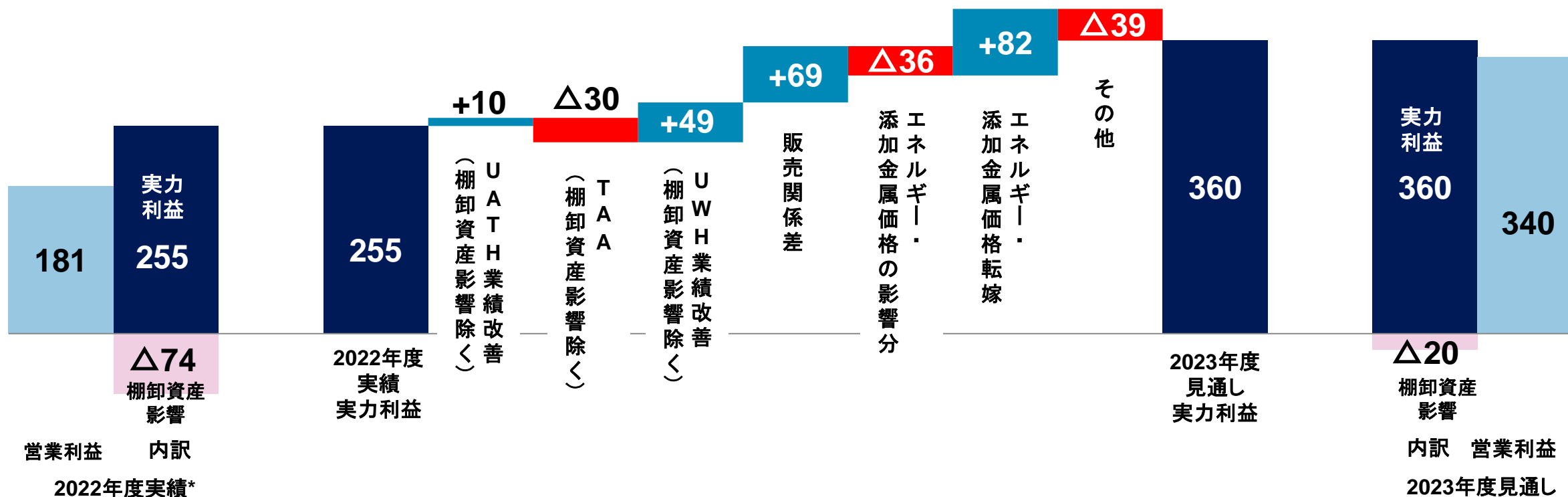


棚卸資産影響前営業利益分析 (2022年実績 → 2023年度見通し) (IFRS基準)

棚卸資産影響前営業利益： **255億円** (2022年実績) → **360億円** (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額：△74億円(2022年実績) → △20億円(2023年度見通し))

(単位：億円)



*IFRS適用にあたり、決算期をそのままにした場合の概算値

設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却費の計上額が上限
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

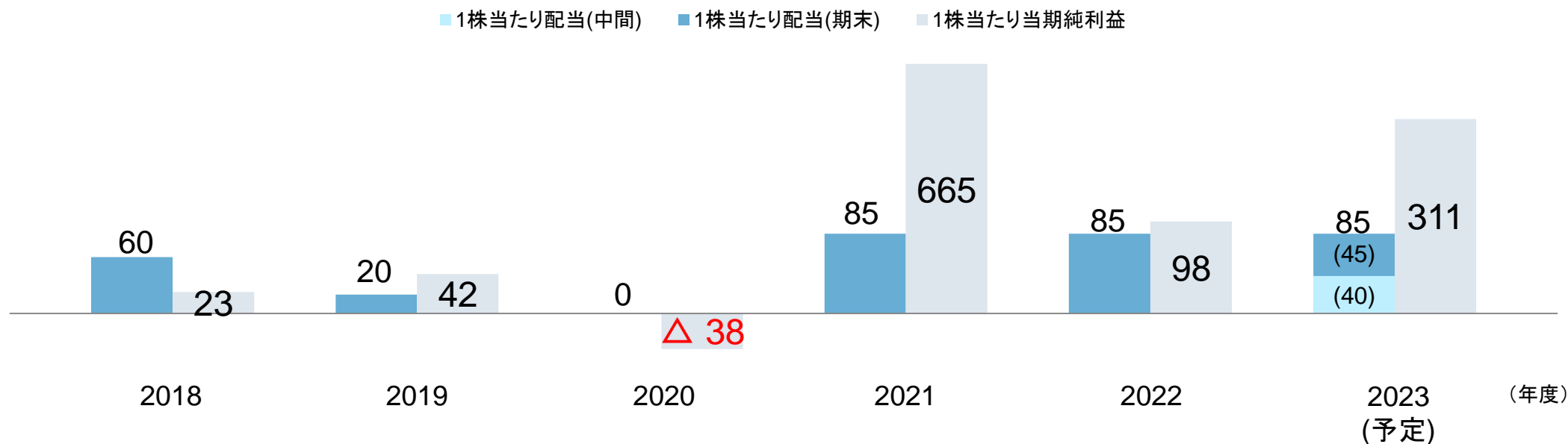
(単位:億円)		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し	2021年度-2023年度 合計値(推実)
設備投資 (工事ベース)	一般投資	129	210	252	591
	戦略投資	79	54	140	273
	合計	207	264	392	864
減価償却費		340	373	392	1,105

株主還元

1株当たり配当金は85円を据え置きます

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 3年間平均での連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
(2023年度より中間配当を予定します)
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



4. 国際財務報告基準（IFRS） の任意適用



IFRSの適用について

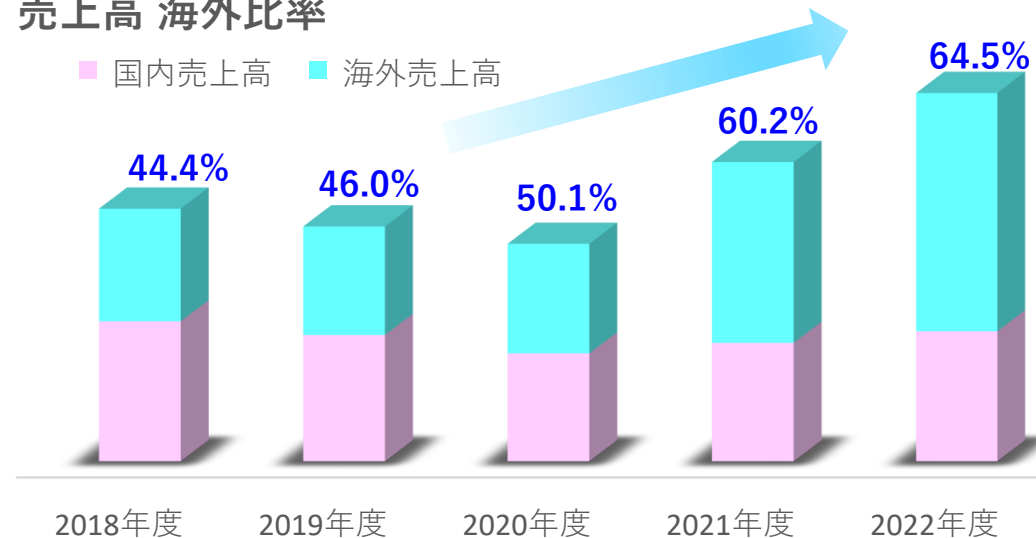
事業活動のグローバル化に対応し、会計基準にIFRS適用を決定

当社グループの売上高・投下資本等に占める海外比率は毎年増加しており、
今後、更に増加していく見込み

- ➡ **グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に、会計面・情報開示面の体制を整備**
- ➡ **IFRSを適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたい**

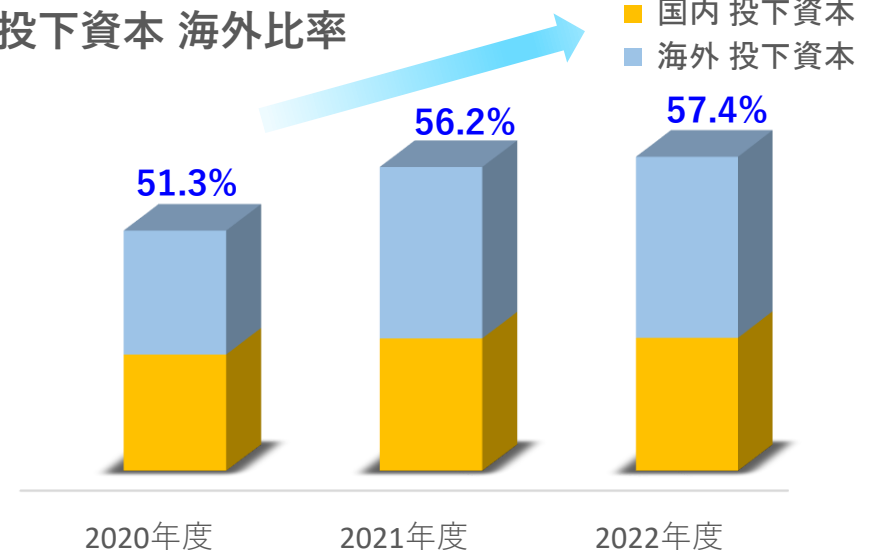
売上高 海外比率

■ 国内売上高 ■ 海外売上高



投下資本 海外比率

■ 国内投下資本 ■ 海外投下資本



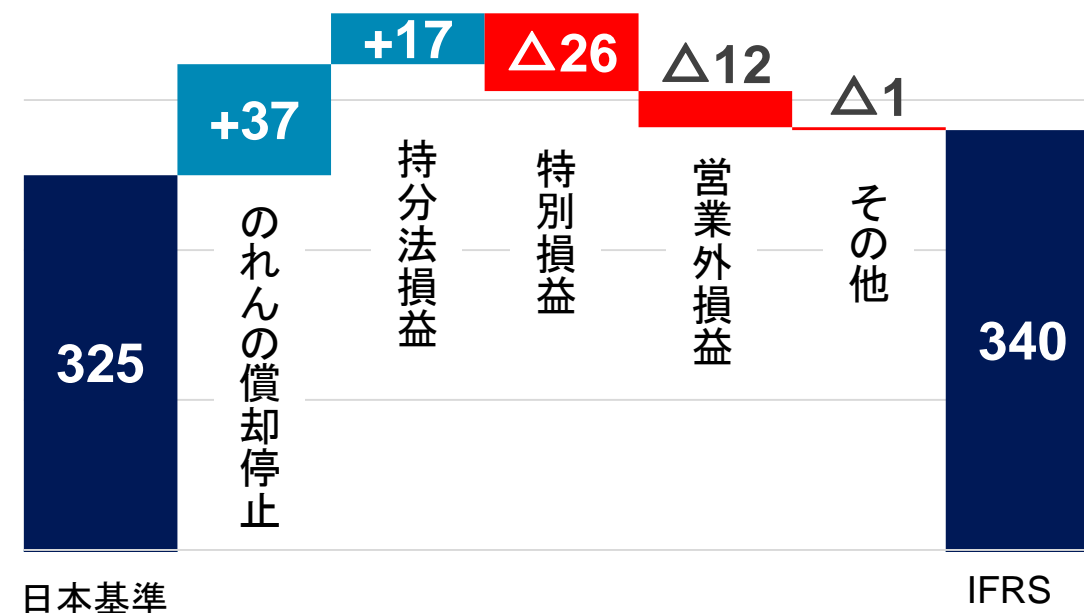
日本基準とIFRSの業績指標比較と変化分析

2023年度見通し比較

日本基準		IFRS	
売上高	9,700	売上高	9,700
営業利益	325	営業利益	340
経常利益	210	-	-
棚卸資産影響前 経常利益	230	棚卸資産影響前 営業利益	360
棚卸資産影響	△ 20	棚卸資産影響	△ 20
当期純利益	115	当期純利益	150

実力利益を示す指標

IFRS適用に伴う営業利益の変化



✓ IFRS適用に伴い業績管理の指標として営業利益を使用

✓ 営業利益がIFRS適用で以下の調整が生じる

- のれんの償却停止
- 持分法損益
- 特別損益
- 営業外損益(金融収益費用除く)
- その他

5. サステナビリティへの取り組み



企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する

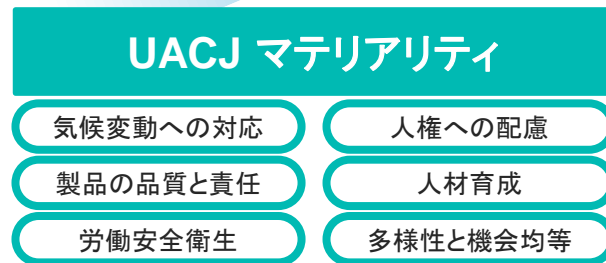


付加価値の追求

社会課題の解決

VISION 2030

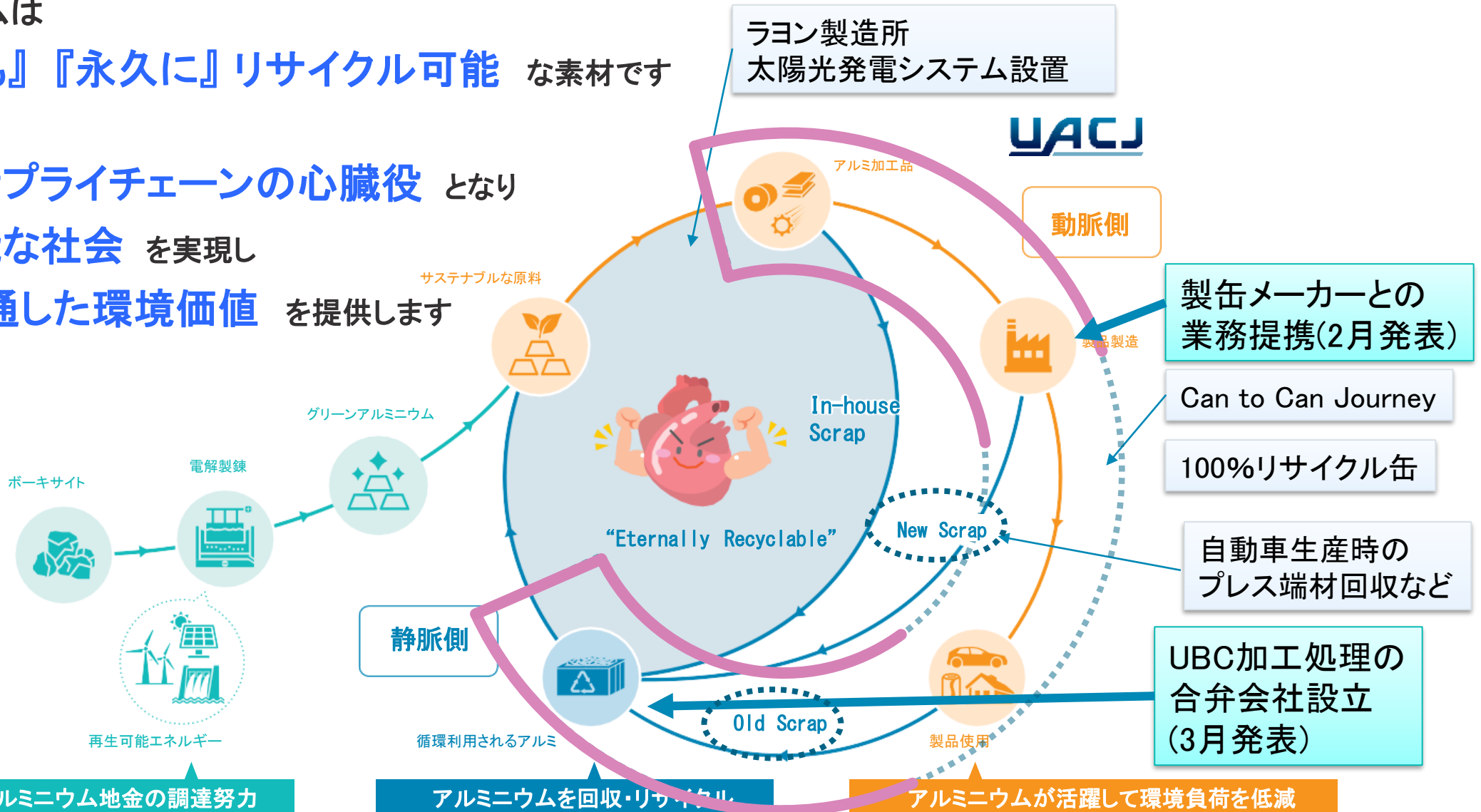
- ・成長分野や成長市場の需要捕捉により、より広く社会の発展に貢献
- ・素材+αで、社会的・経済的な価値の向上に貢献
- ・新規領域への展開により、社会課題の解決に貢献
- ・製品ライフサイクルでのCO₂削減により、環境負荷の軽減に貢献



社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは
『何度でも』『永久に』リサイクル可能な素材です

- UACJは
- ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
 - ・持続可能な社会 を実現し
 - ・アルミを通じた環境価値 を提供します



グリーンアルミニウム地金の調達努力

アルミニウムを回収・リサイクル

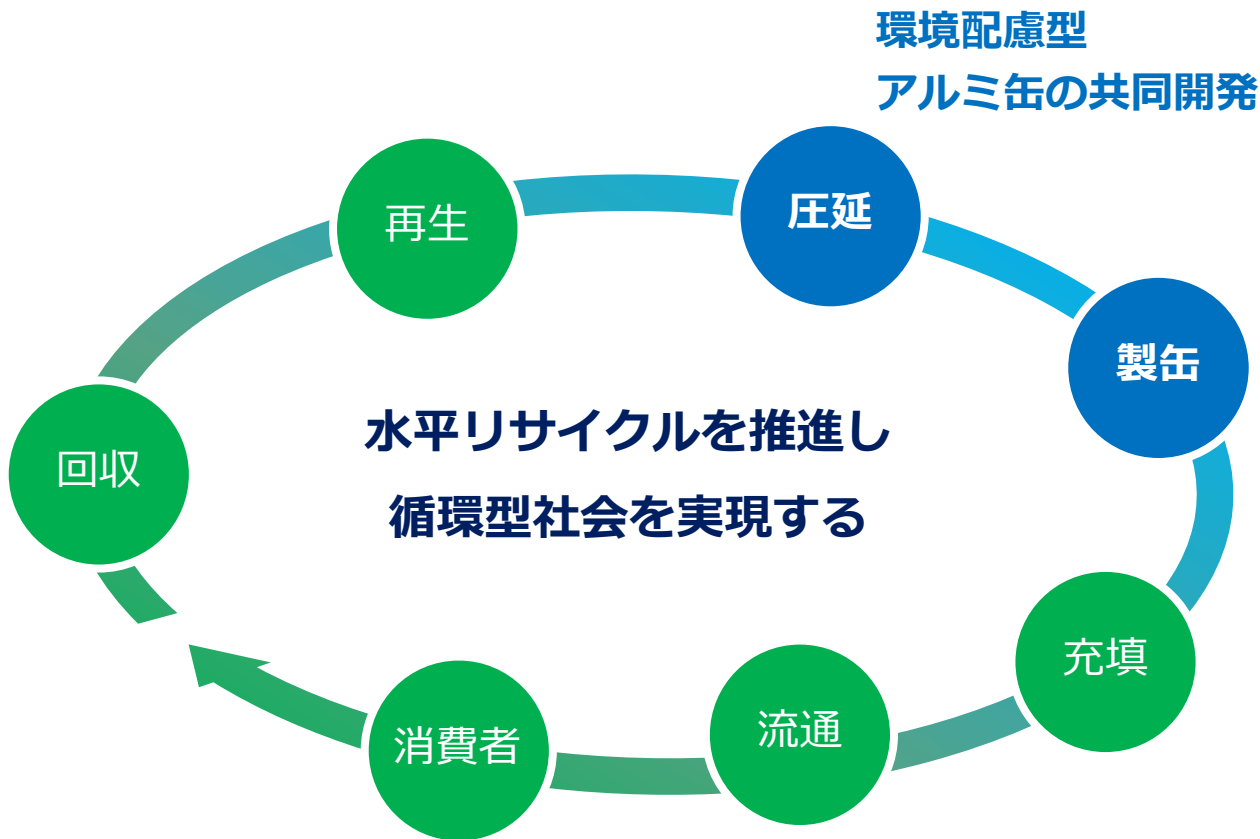
アルミニウムが活躍して環境負荷を低減

2022年度トピックス

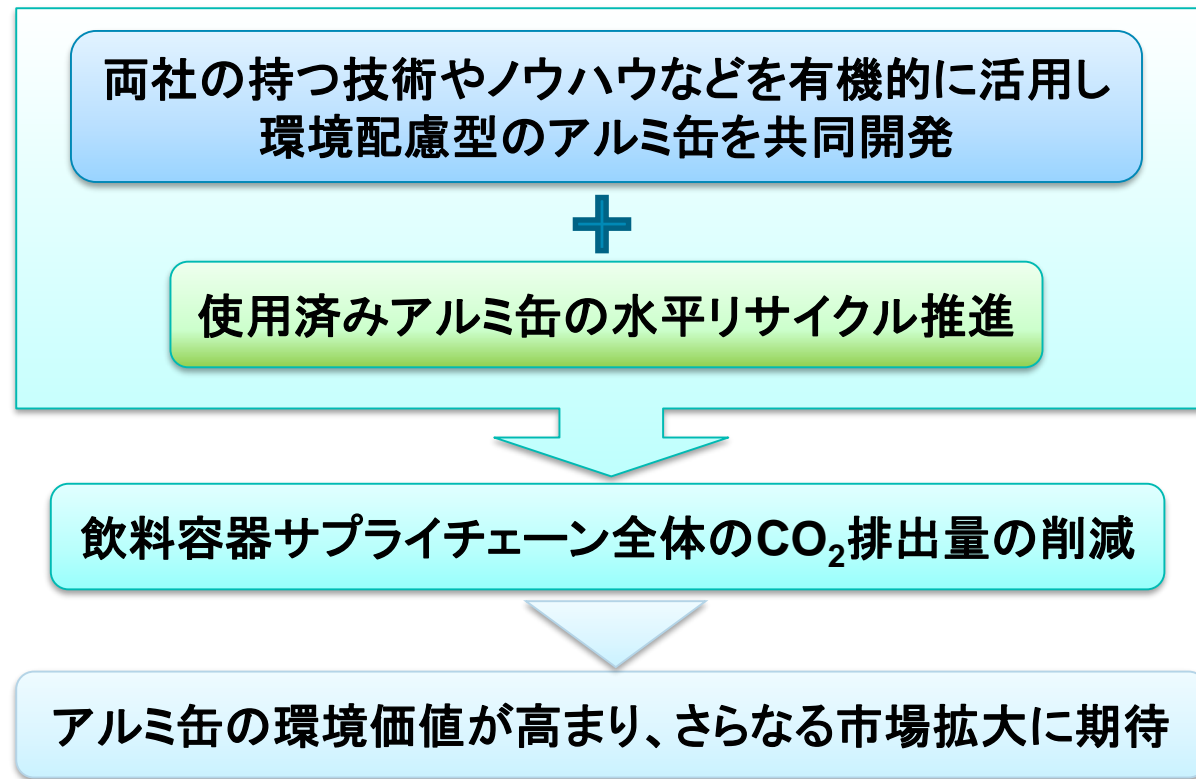
2022年5月	S	福井製造所が「ふくい健康づくり実践事業所」県経団連会長賞を受賞
5月	E	UACJグループの自動車分野向けアルミニウム板材ブランド「U-ALight」を立ち上げ
6月	E/S/G	ESG指数「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に選定
7月	S	東京ヤクルトスワローズと社会貢献活動を実施
7月	E/S	アルミボトル缶入り備蓄水と供給ネットワークサービス「水の架け橋」の実証実験を開始
7月	S	宇都宮ブルックスとバスケットボール教室を開催
8月	E	世界初の100%リサイクル缶を、サントリー・東洋製罐グループホールディングスと共同で製造
9月	E/S	愛知県のスタートアップエコシステム連携事業に参画
10月	S	業界初、折りたたみ可能なパーソナルブース「origami +work」の販売を開始
11月	E/S/G	「ESG説明会」を初開催
12月	S	福井県坂井市にて野球教室を開催
12月	E	UATHが「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」において、最高位のプラチナレベルを受賞
12月	E	CDP2022「気候変動」「水セキュリティ」で「B」の評価を獲得
2023年2月	E	アルミ缶水平リサイクルの推進に向けて、東洋製罐グループホールディングス(株)様と業務提携契約を締結
2月	E/S	UACJ押出加工名古屋が愛知県安城市の「あんじょうSDGs共創パートナー」に登録
3月	E	山一金属(株)様とUBC*加工処理の合併会社を設立し、溶解リサイクルシステムを構築
3月	S	「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」の認定を取得
3月	E/S	当社材を使用したアルミカップで「ナカメチャレンジコップ2023」に参画
3月	E	UACJグループ主要国内製造拠点過半数の17拠点が「再エネ電力100%工場」へ
—	S	人権デューデリジェンスを新たな拠点で実施(2022年度は押出加工安城などで実施)

アルミ缶の水平リサイクル※推進：東洋製罐グループホールディングス(株)様との業務提携契約を締結

アルミ缶の環境価値を高め、さらなる市場拡大へ



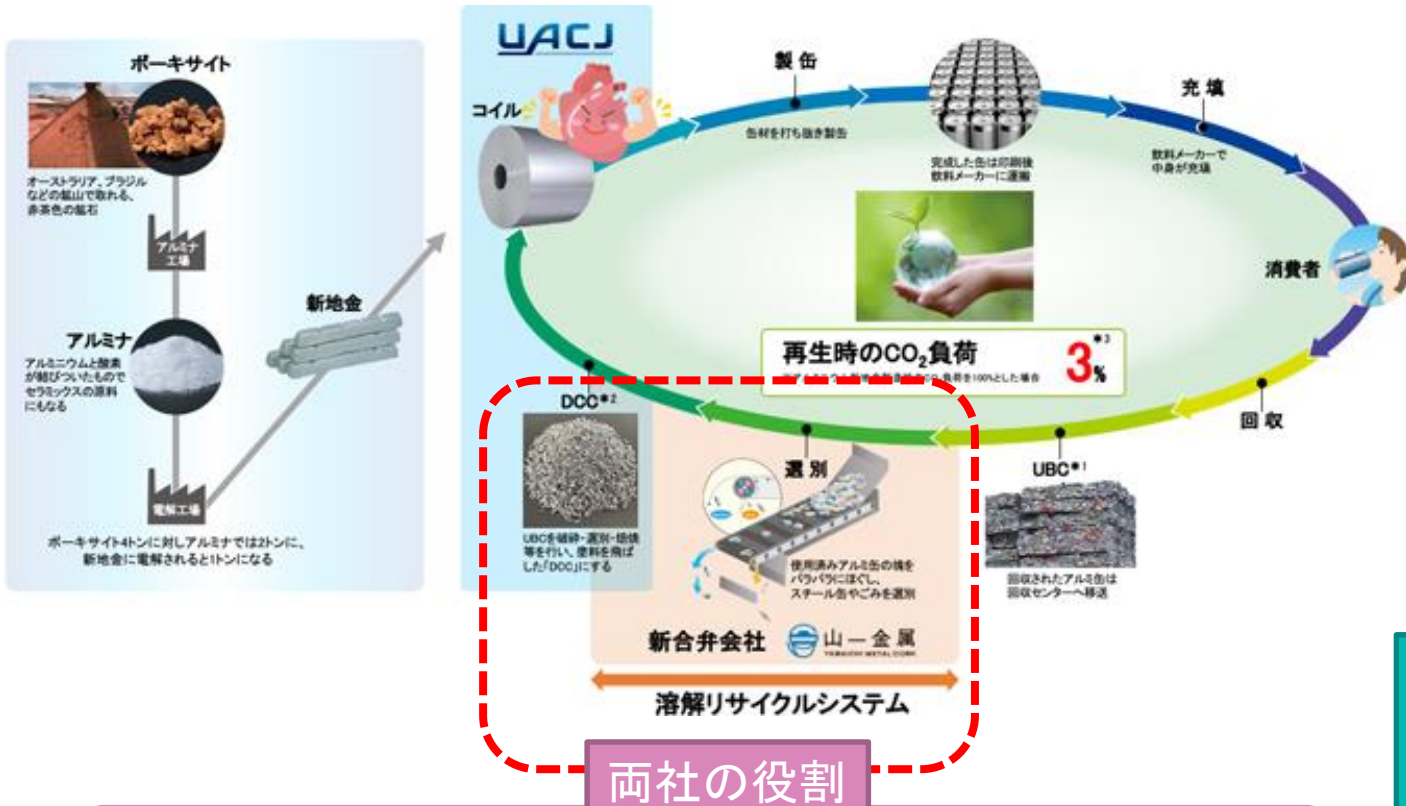
使用済みアルミ缶の
水平リサイクル推進の検討



※アルミ缶の水平リサイクル：
使用済みアルミ缶を再びアルミ缶材の原料として使用するリサイクル

アルミ缶の水平リサイクル推進：山一金属(株)様とUBC加工処理に関する合併契約を締結

UBC※の「溶解リサイクルシステム」の構築により、循環型社会実現に向け貢献



合併会社設立と溶解リサイクルシステムの構築
⇒UBCの加工～溶解までを一貫化し、
サプライチェーンの流れを強固に

UBCの使用率増加

「Can to Can」のリサイクル率を高めた製品を供給

- ◆ 飲料缶サプライチェーン全体のCO₂排出量削減
- ◆ 循環型社会実現に向けて貢献

UACJ
UBC加工処理設備を設置し、
リサイクル率を高めた製品の供給

山一金属様
UBCなどの原料調達、
ノウハウや技術提供

※UBC：使用済みアルミ缶 (Used Beverage Can)

国内製造拠点過半数の17拠点が「再エネ電力100%工場」へ

加工品の拠点を「再エネ100%工場」とし、顧客のCO₂削減の選択肢に

☀ 再エネ電力100%工場の一覧(計17拠点)

- 株式会社UACJ押出加工名古屋(安城製作所)
- 株式会社UACJ押出加工群馬
- 株式会社UACJ押出加工滋賀
- 株式会社UACJ鋳鍛(鋳鍛工場、鋳鍛第二工場)
- 株式会社UACJ金属加工
(仙台工場、成田工場、恵那工場、滋賀工場、広島工場)
- 株式会社ナルコ郡山
- 株式会社UACJアルミセンター
(宇都宮カラーアルミ工場、滋賀工場、奈良工場)
- 泉メタル株式会社
- 鎌倉産業株式会社
- 株式会社UACJ Marketing & Processing

☀ 100%再生可能エネルギー由来の電力(以下「再エネ電力」)を年間約220GWh購入(2023年4月から実施)

☀ UACJグループの国内主要17製造拠点をScope2のCO₂排出量がゼロとなる「再エネ電力100%工場」へ

☀ CO₂排出量を年間約10万トン削減※を実現
⇒UACJグループのScope2・CO₂排出量の約20%に相当
※一般家庭に換算した場合、約54,000世帯の年間排出量に相当

最終製品に近い製品の製造拠点から実施することで、顧客のScope3・CO₂排出量削減にも貢献できる

資本効率を経営指標とした対応及び株価を意識した経営の実現に向けて

資本効率経営の強化に加え、資本市場との対話を充実させ、企業価値向上に努める

第3次中期経営計画/長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 財務指標: ROE、ROIC、D/Eレシオ
→ 当社は資本効率を経営管理の指標として取り入れかつ、資本市場との対話を積極的に実施

財務指標 KPI

	第3次中計期間					
	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023(予)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.6%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	5.5%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2

資本効率管理に対する当社の取り組み

- ✓ 資本コストを基準とした目標(資本効率)を設定し、損益、投下資本の管理を実施
例: キャッシュ・フローの管理・・・ CCC(キャッシュ・コンバージョンサイクル)の改善
- ✓ 資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映して企業価値向上に繋げる



企業価値向上を実現させるため、更に取り組みを強化

*1 ROIC : 税引前営業利益を基に算出 *2 D/Eレシオ : 劣後ローンの資本性考慮後

IR-Day

2023年6月7日(木) 9:00~12:00

形式 オンライン開催

登壇者	代表取締役 社長執行役員	石原 美幸
	取締役 副社長執行役員	川島 輝夫
	取締役 常務執行役員	田中 信二
	常務執行役員/板事業本部長	橋本 圭造
	常務執行役員/TAA,CEO	Henry Gordiner
	執行役員/自動車部品事業部長	佐藤 文彦
	UATH社長	稲垣 公樹
	UWH,CEO	David Cooper

ESG説明会

2023年12月上旬予定

6. ご参考データ



諸元と感応度

	2020年度 (3月末)	2021年度 (3月末)	2022年度 (2023年3月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	243	378	408	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	1,802	2,796	2,690	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	106	112	136	・燃料単価、添加金属:円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差:円安 が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.4	3.8	
原油 (ドバイ:米\$)	45	78	92	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

5. ご参考データ

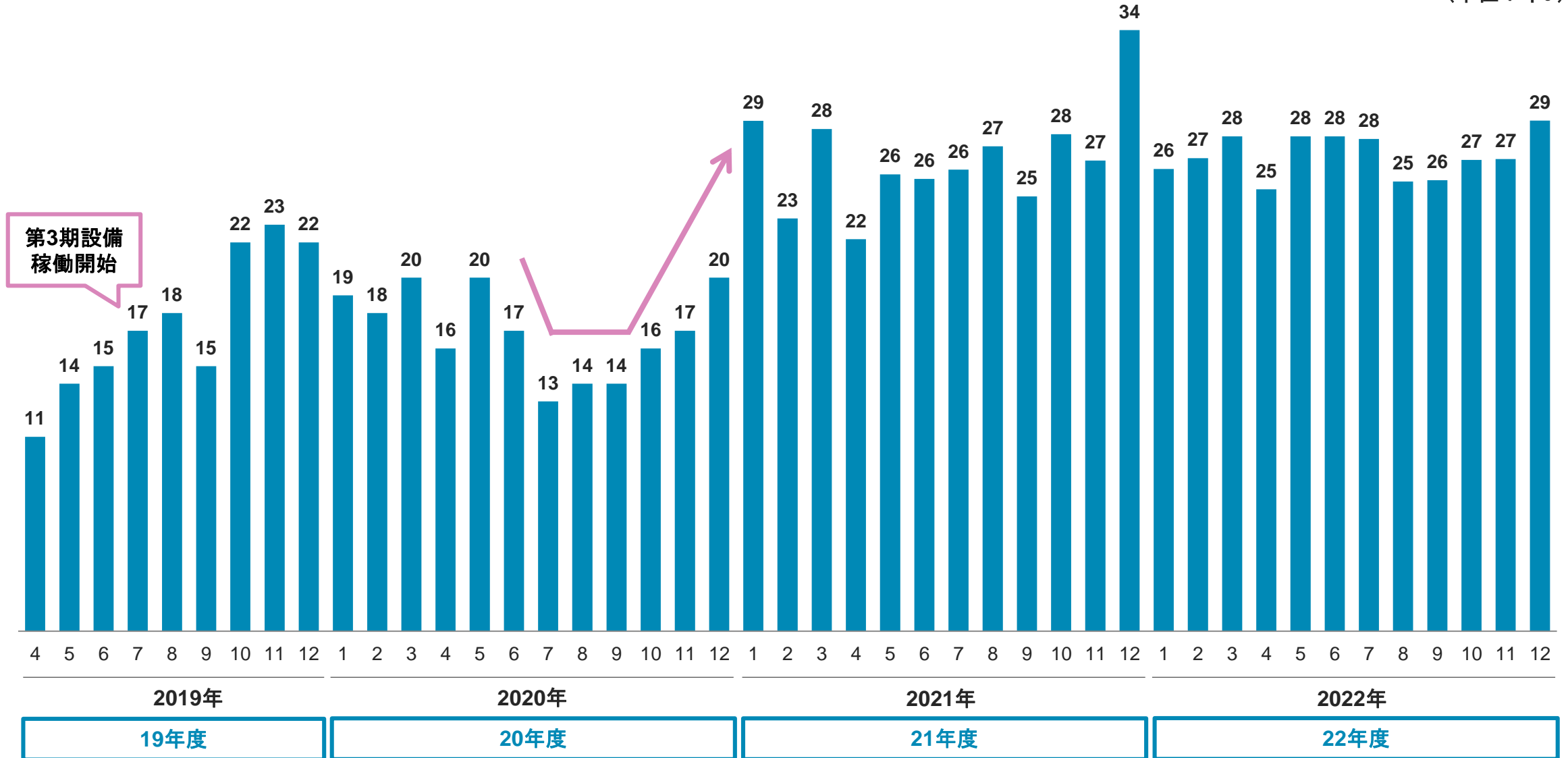
主要指標推移

(単位:億円)

	日 本 会 計 基 準							I F R S
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (見通し)	2023年度 (見通し)
連 結 売 上 高	6,243	6,613	6,152	5,698	7,829	9,629	9,700	9,700
連 結 営 業 利 益	292	149	101	111	595	172	325	340
棚卸資産影響前 連 結 営 業 利 益	-	-	-	-	-	-	-	360
棚卸資産影響前 連 結 経 常 利 益	113	30	98	62	213	161	230	-
連 結 経 常 利 益	194	62	38	60	523	87	210	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	123	11	20	△33	321	47	115	150
設 備 一 般 投 資	147	161	143	109	129	210	252	-
設 備 戦 略 投 資	365	365	347	72	79	54	140	-
合 計	512	525	489	181	207	264	392	-
減 価 償 却 費	251	307	312	334	340	373	392	-
有 利 子 負 債 残 高	3,423	3,751	3,440	3,358	3,394	3,367	3,343	-
R O E (%)	6.5	0.6	1.1	△1.8	14.1	1.9	4.6	-
R O I C (%)	5.8	2.3	1.9	2.2	11.1	3.0	5.5	-
D / E レ シ オ (倍)	1.50	1.68	1.56	1.56	1.36	1.25	1.2	-
営 業 キャッシュフロー	174	107	581	386	78	526	-	-
投 資 キャッシュフロー	△ 519	△ 349	△ 300	△ 210	△ 210	△ 269	-	-
フ リ ー キャッシュフロー	△ 345	△ 243	281	177	△ 132	257	-	-

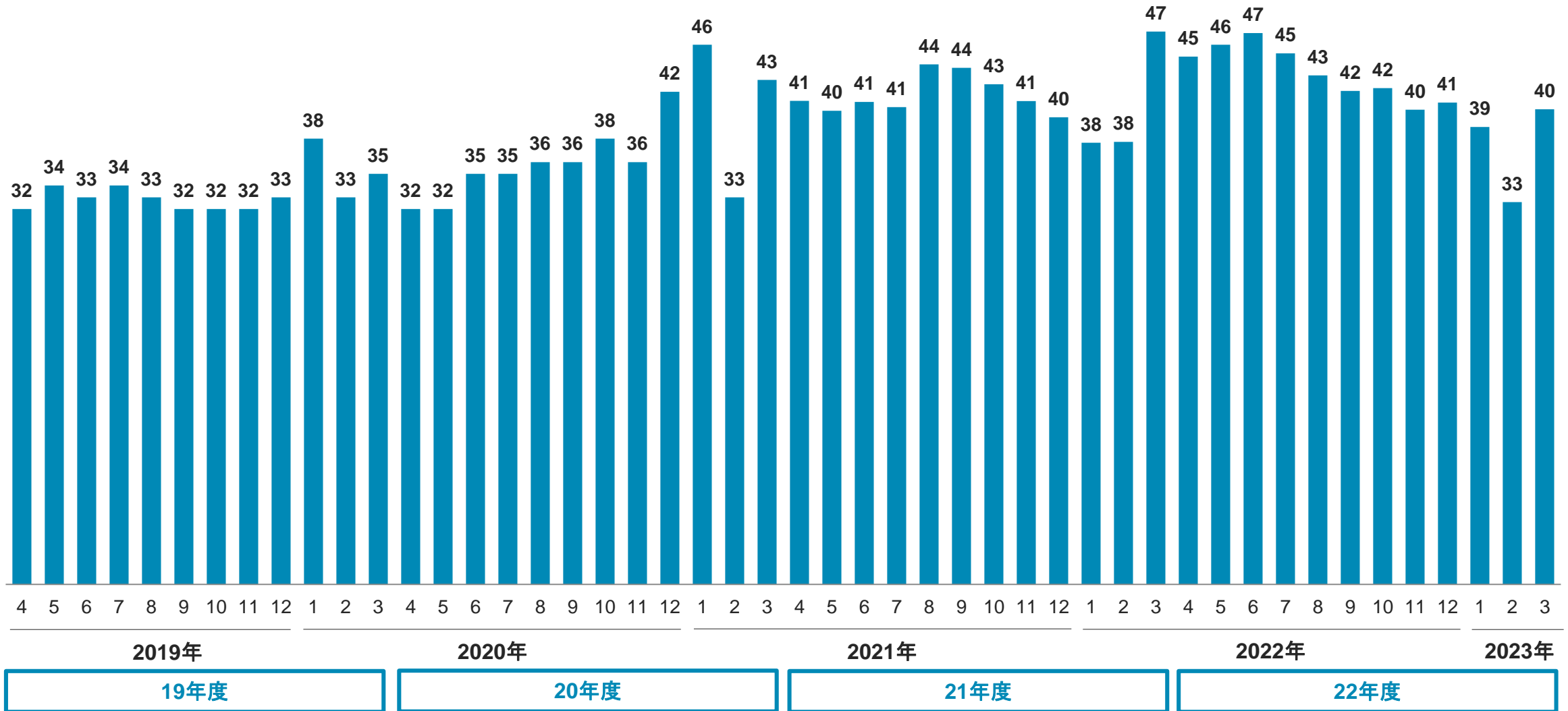
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)

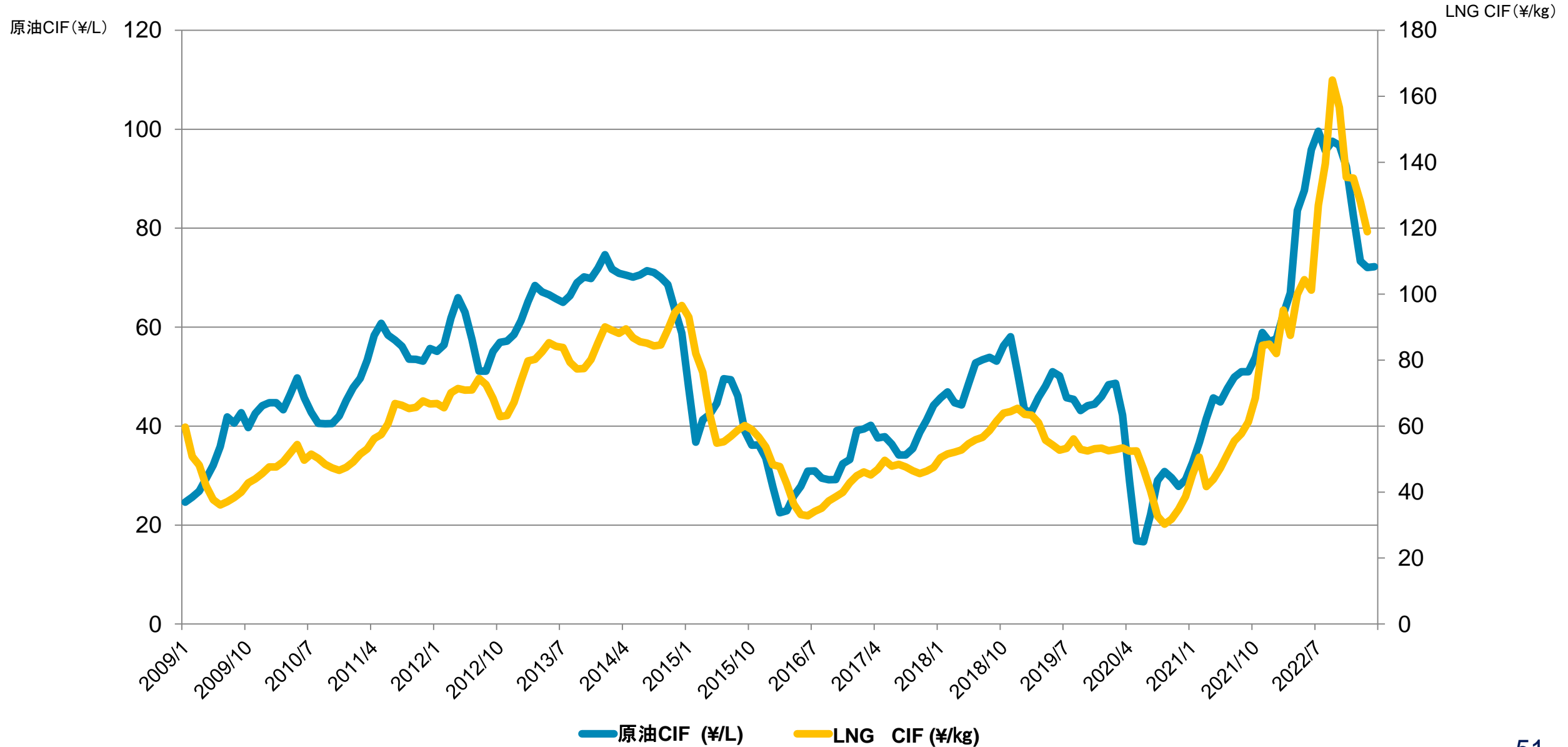


TAA 月次販売量推移

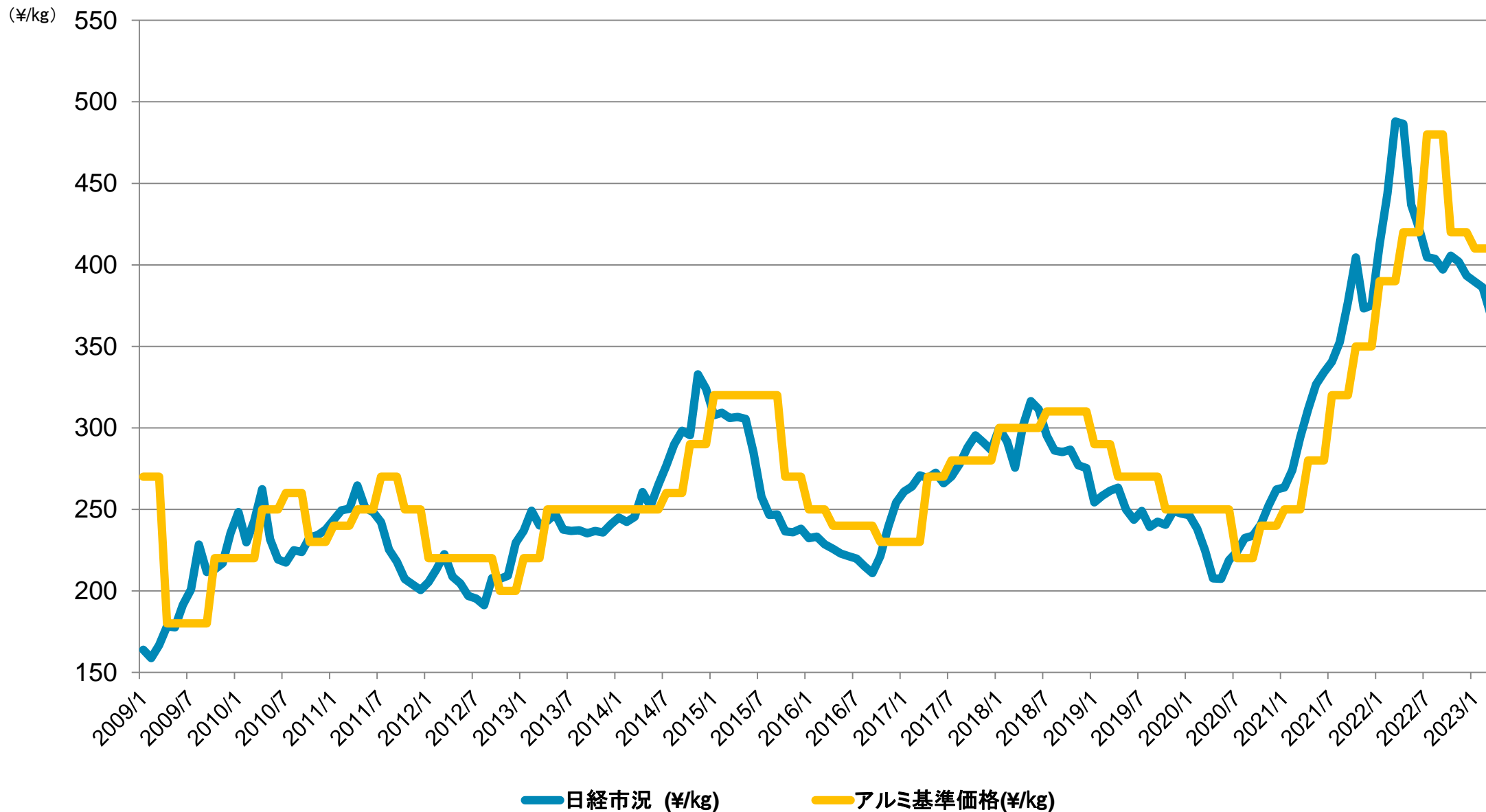
(単位：千t)



燃料単価推移

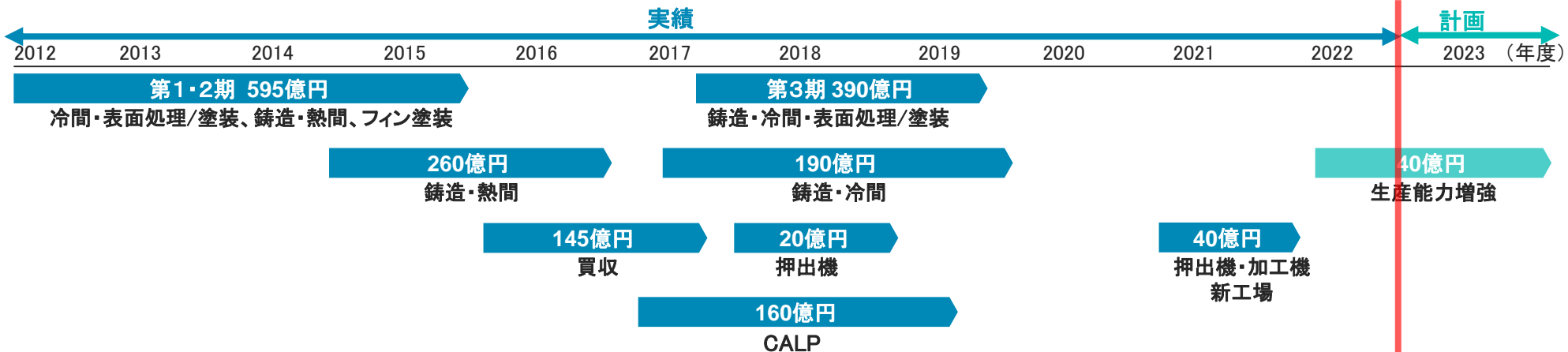


アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ

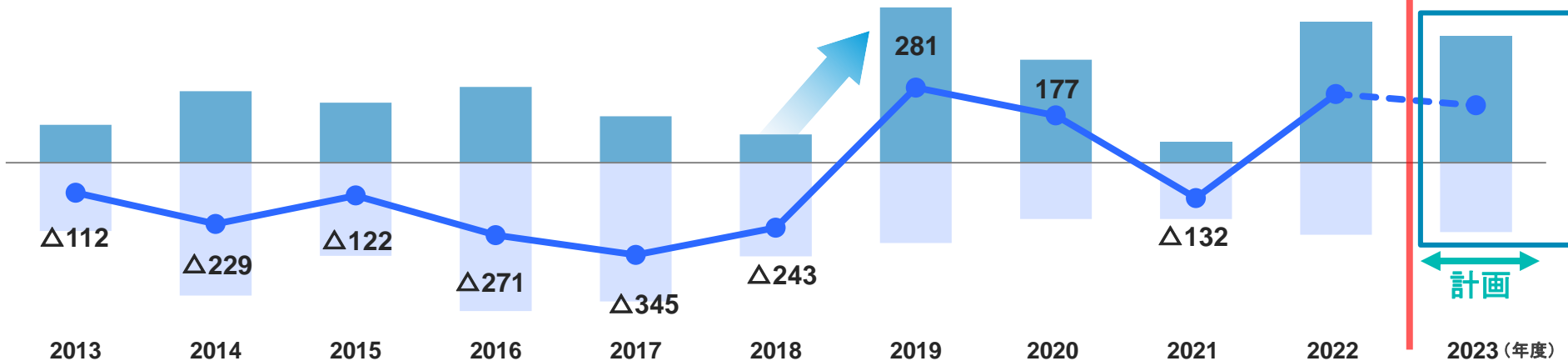


主な戦略投資/投融資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



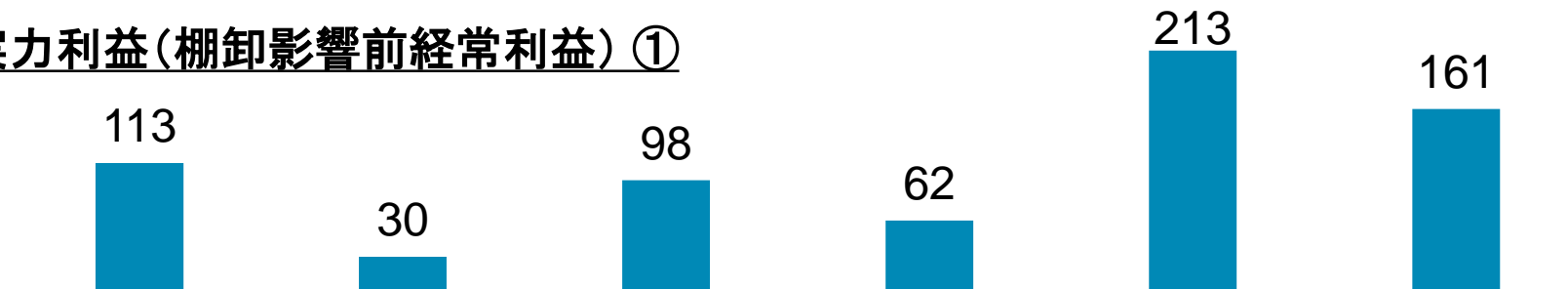
営業キャッシュフロー (青) | 投資キャッシュフロー (紫) | フリーキャッシュフロー (赤)



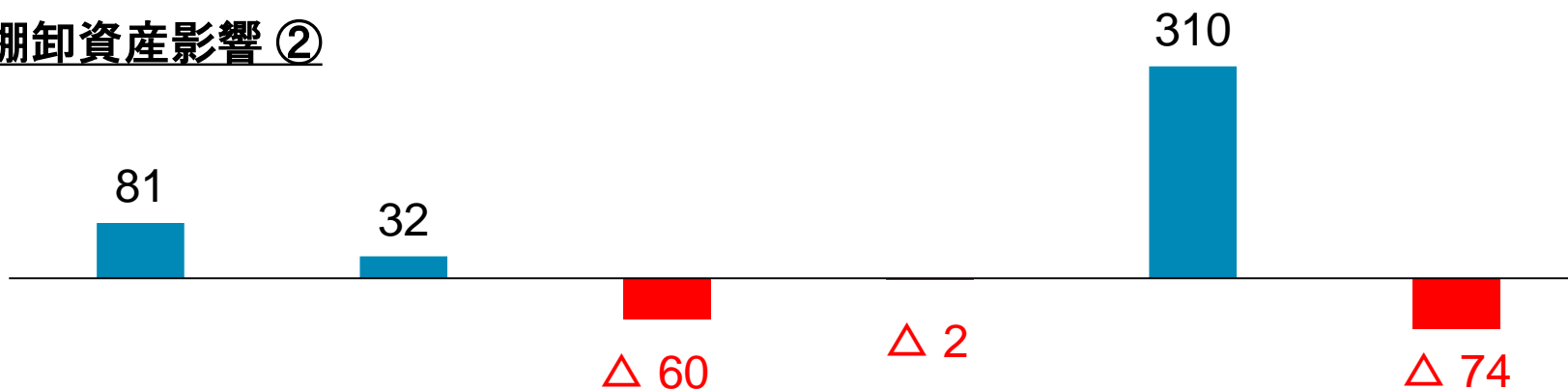
実力利益、棚卸資産影響、経常利益推移 (FY2017～FY2022)

(単位:億円)

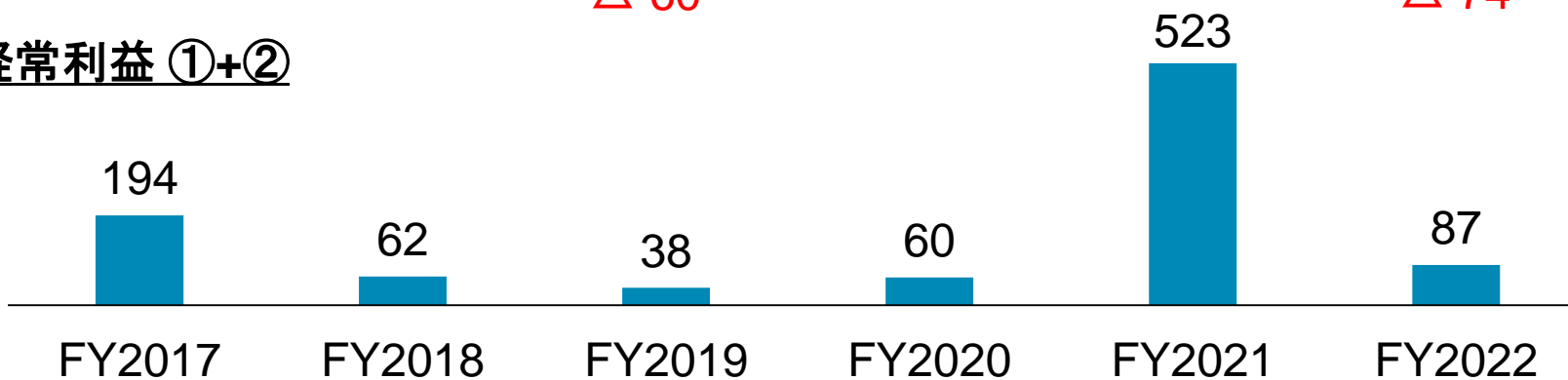
実力利益(棚卸影響前経常利益) ①



棚卸資産影響 ②



経常利益 ①+②



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



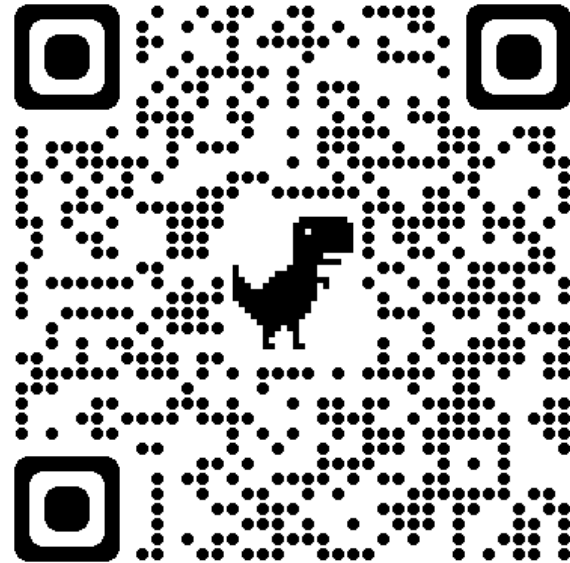
Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

アンケートのお願い

本日の説明会について、アンケートへのご協力をお願い申し上げます

皆様への情報提供など、今後のIR活動を従前に増して充実いたしたく、ご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです



ご登録いただく個人情報含む全ての情報は、本アンケートの上記目的以外には使用いたしません